

研究課題 (テーマ)		前腕浴が前頭葉機能に及ぼす影響	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科	講師	山崎智可
分担者	富山大学学術研究部医学系	教授	堀悦郎
研究結果の概要			
<p>本研究の目的は、両腕を湯につける前腕浴が前頭葉機能に及ぼす影響を明らかにすることである。前頭前野の脳血行動態、自律神経活動および前頭葉機能検査 (Stroop 課題の反応時間) について、前腕浴の影響を調べた。Stroop 課題は、“文字のいろ”が“文字の意味”と合致しているか、合致していないか、をできるだけ速く答えてもらう課題である。</p> <p>対象者は18歳以上40歳未満の者とした。前腕浴では、湯(42.0±1.0℃)に肘関節まで浸け、非前腕浴では非浸水にて浴槽に肘まで入れ、前腕浴と同様の姿勢・動作をした。前腕浴あるいは非前腕浴の前と前腕浴あるいは非前腕浴中にStroop課題を実施した。</p> <p>その結果、前腕浴では、背外側前頭前野の脳血行動態が増加している場合には、Stroop課題の反応時間短縮が認められた。一方、非前腕浴では背外側前頭前野の脳血行動態やStroop課題の反応時間短縮に変化が認められない事例があったことから、1)背外側前頭前野の脳血行動態とStroop課題の反応時間には関連があること、2)前腕浴には上記の関連を増強する可能性があることが示された。また、自律神経活動においては、交感神経活動の亢進と副交感神経活動の抑制が認められた。このことから、前腕浴には覚醒度を上昇させる効果が期待できると考えられる。</p>			
今後の展開			
<p>今後は症例数の増加を図り、得られる結果の信頼性および精度の向上に努める。</p>			